

平成26年度 第1回 地域公共交通会議議事録

日時：平成26年6月26日（木） 午後1時30分～午後2時15分

場所：有田市役所4階 市長応接会議室

（出席委員） 成川満、廣瀬洋一、平田克也、鈴木孝志（代理：山本）、
脇村忠次、江川俊三、藪本晴己、高垣太郎（代理：上平）、
森下清司、永田和之（代理：太田）、乾弘（代理：島津）

（欠席委員） 北村修、高瀬秀彰、田村政博、鹿嶋久義

（出席事務局職員） 大中経営管理部理事、嶋田経営企画課長、竹中まちづくり係長

（議 事）

議案第1号 平成25年度決算の承認について

議案第2号 平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について

1. 開会（事務局）

ただいまより、平成26年度第1回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんの出席をいただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに成川会長よりご挨拶よろしく願いいたします。

2. 会長挨拶

皆さん、どうもこんにちは。

委員の皆様にはお忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議、ご検討いただきまして、地域内フィーダー系統確保維持計画に基づきまして、計画的かつ効果的な事業実施を行っているところでございます。

前回の会議では、ダイヤ改正案についてご協議・ご承認をいただきまして、5月1日から新しいダイヤ及びルートで運行しているところでございます。

デマンドバスも早や7年目の運行を迎えておりまして、今後とも市民の皆様々に地域の公共交通機関として親しまれるように努めていきたいと思っております。

つきましては、本日、平成25年度決算も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方について、活発にご協議していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は皆様、ご苦勞様でございます。よろしくお願いいたします。

3. 委員紹介（事務局）

ありがとうございました。それでは委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思えます。新年度となりまして、委員様方におかれましては職場の人事異動等により交代がございました。この度新たに7名の方に委員にご就任いただいております。事務局より委員様全員をご紹介させていただきます。

（委員紹介）

委員様におかれましては、今後とも当会議の運営にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。成川議長よろしく願いいたします。

4. 議事

(成川議長)

それでは早速ですが、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、議案2件でございます。

まず、議案第1号「平成25年度決算の承認について」を説明願います。

(事務局説明)

議案第1号「平成25年度決算の承認について」をご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。当会議の平成25年度決算報告ということで、歳入といたしまして、有田市からの負担金27,632円となっております。2.の繰越金につきまして、25年度はありませんでしたので、0円となっております。また、3. 諸収入といたしまして広告料収入等で330,053円となっております。以上、歳入合計で357,685円となっております。

続きまして、歳出といたしまして、1. 運営費の会議費で27,000円、事務費といたしまして632円、2. 事業費としまして、先ほどの広告料収入等の330,053円を事業者の中紀バスさんに支出しております。3. 予備費はありませんでしたので、歳出合計といたしまして357,685円となり、歳入・歳出同額となっております。それから、バス運行に関する国庫補助金は、事業者の中紀バスさんが直接申請をして、直接中紀バスさんに入りますので、それ以外の経費、当会議の運営経費の決算報告ということになります。

また、資料の3ページにデマンドバスの平成25年度収支実績も参考につけさせていただいております。収入につきましては、運賃収入で2,485,000円、国庫補助金が25年度下半期分で7,830,000円、26年度上半期分で6,574,500円、合計16,889,500円となっております。支出につきましては、運転手の人件費で6,329,889円、一般管理費人件費で1,791,320円、燃料代1,389,305円、バスの修繕費1,368,555円、車両使用料6,300,000円、駅構内使用料26,000円、合計17,205,069円となり、差し引き315,569円の赤字となっております。先ほど説明しました当会議から支出しています広告料収入につきましては、これ以外の経費、利用促進にかかる経費や事務費に充てられております。

ご質問、ご意見等をいただく前に要綱第10条第3項の規定に基づき、2名の監事様に監査していただいておりますので、山崎監事よりご報告をお願いいたします。

(監査報告)

(成川議長)

ただいま監査報告が終わりました。平成25年度有田市地域公共交通会議の決算について、ご意見・ご質問はございませんか。

(成川議長)

先ほどの説明でデマンドバスの実績で30何万円の赤字ということだったが、これは結局、この会議から支出される広告料収入を充てるということか。

(事務局)

いえ、広告料収入は運行経費とは別のところに充てられております。先ほどのデマンドバスの収支実績は、あくまで運行に関する部分ということで、広告料収入は時刻表の作成などの利用促進にかかる経費や事務的な経費に充てるということになっておりますので、こちらの収支実績には含まれないということになります。

(成川議長)

それでは、差額は事業者負担ということか。

(事務局)

そうです。今は事業者負担ということになっています。

(意見及び質問なし)

(成川議長)

特にご意見等がないようでしたら、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)

ご異議ないようですので、議案第1号「平成25年度決算について」は承認されました。

それでは引き続き、議案第2号「平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について」を説明願います。

(事務局説明)

議案第2号の説明に入る前に、山崎監事につきましては、他の業務のため、ここで退席させていただきます。ありがとうございます。

それでは、地域内フィーダー系統確保維持計画の概要から説明いたします。バスの運行経費に対する国庫補助金を活用するためには、本計画を法定協議会である当会議で策定、承認をいただいて、毎年6月末までに国土交通省に提出しなければなりません。フィーダー系統とは、バスの停留所、鉄道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統をいいます。地域間交通ネットワークとは、複数の市町村間にまたがる公共交通網のことであり、有田市デマンドバスは、JR箕島駅で鉄道と乗り継ぎできるようにしております。

また、27年度の意味ですが、この計画は平成26年10月から平成27年9月までの運行分となっております。国の予算では、平成27年度予算から補助金が支出されますので、10月までに補助額の内定をいただいております。

続きまして、計画の内容について説明いたします。資料の6ページをお開きください。まず、1. 目的と必要性では、高齢化率が高くなってきている本市において、高齢者を始めとする交通弱者の方たちの買い物や通院などの交通手段として、低運賃で乗車できるバスの運行が必要不可欠であり、そのために、この計画を安全で安心して利用できる公共交通機関の存続と市の活性化を図るための計画として、行政のみでなく地域住民及び交通事業者等が一体となって総合的に推進していくものとして位置づけております。

2. 定量的な目標・効果ですが、公共交通空白地域の解消、年間輸送人員・運賃収入の前年度並みの維持、高齢者等の社会参加の促進、というようにしております。また、事業の効果といたしまして、高齢者による交通事故をなくすため、マイカーなしでも通院や買い物が出来、快適に暮らせる地域づくりを目指しております。

次に、3. 運行系統の概要及び運行予定者及び4. 費用の総額、負担者及びその負担額については、別表1・2のとおりとなっておりますが、資料12ページ以降になります。これは許可運行系統別の経費についてまとめられたものです。

12ページをご覧ください。現在AコースとBコースで停留所の回り方がそれぞれ3パターンずつございまして、合計6系統となります。右から2番目の列には、先ほど説明しましたが、すべての系統でJR箕島駅と接続していることを記載しており、補助基準に適合していることを表しております。その表を平成27年度から29年度の3ヶ年分を添付しております。

次に、経費につきましては、15ページをお開きください。A3サイズの折り込んだものです。表2につきましては、複雑なものとなっておりますが、バスの走行キロ数、キロ当たり標準単価、補助対象経費の限度額などにより要綱で定められた算定を行っております。簡単に申し上げますと、これは補助金額を算出するもので、運行回数や運行距離、人件費

など中紀バスさんの経営状況を踏まえた計算で出した答えと、別に地域上限額が決められておりまして、比較してどちらか少ない方が補助申請額となります。

今回、一番下の行を見ていただきますと、右から4番目のツの列、補助対象経費が29,225千円となっています。その1/2の14,612千円、隣のネ欄の額ですが、それと国庫補助上限額、その隣のナ欄の額11,354千円、いずれか少ない方の額が国庫補助金内定申請額となりますので、11,354千円が補助申請額となります。補助上限額は、交通不便地域の対象人口を基に計算しますが、対象人口については後ほど説明いたします。この表についても、平成27年度から29年度の3ヶ年分を添付しております。

7ページにお戻りください。上から7行目、計画の4.に記載しているとおり、有田市から運行事業者への負担金については、実績運行経費から国庫補助金を差し引いた差額分を負担することとしています。しかし、予算も限られているため、今のところ不足する額については事業者が負担するというようお願いしています。

次に7ページの中程、9.地域の概要ですが、別表5のとおりとあります。21ページをお開きください。ここでは、直近の国勢調査人口を用いることになっておりますので、平成22年の国勢調査人口を使っています。有田市は市域全域が半島振興法に基づく半島振興対策実施地域となっておりますので、交通不便地域の人口は全人口の30,592人となり、先ほどの対象人口の数字となります。

また、7ページにお戻りください。下の方、14.協議会の開催状況と主な議論では、平成19年4月1日に当会議が設置されてからの会議の開催状況と議題等を9ページまで記載しています。

9ページの下の方、15.利用者等の意見の反映状況では、住民代表として連合自治会から3名の委員さんに参画していただいていること、その他意見を聞く体制が整っていることを記載するとともに、必要に応じてアンケート調査等を行う予定であることを記載しています。

22ページ以降には、時刻表、路線図を付けさせていただきます。

以上で、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

(成川議長)

それでは説明が終わりましたので、議案第2号について、委員の皆様方のご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく申し上げます。

(廣瀬委員)

15ページですね。国の補助金はどうやって計算されているかということをお補足説明させていただきます。先ほどの説明の中にもありましたが、一番下の欄のところで、右から4番目のツ欄「補助対象経費」というのがありますが、これは実際運行しているバス会社さんの経費に一定の考え方、地域の方がどれだけ使っているのかとかいろいろな事を加味しながら、補助対象経費というのは決まります。実際にはもっとかかるという認識を持たれた方が良いでしょう。その金額の半分を国から補助しましょうというのがネ欄ですね。さらに国庫補助上限額というのがあります。これだけしか出ませんよという額です。なぜ上限を定めているのかと申しますと、あまり人が住んでいないような所とか利用されないような所にどんどんバスを走らせると、コストがかさむばかりですので、一定の上限を設けましょうということで、全国统一でこういう格好にしています。ここの計算の仕方というのは、先ほど半島振興法によるという説明がありましたが、人口×約240円+400万円ということで、全国的にこういう計算で補助上限額が出てきます。従って、内定申請額というのは11,354千円となります。ですので、これから事業者負担というか、市の負担がかなり増えてくるかと思っておりますので、どんどん皆さんに利用していただいて、地域活性化とか、長くバスを残せるように取り組んでいただきたいと思います。それと、今この額で挙がっていますが、これからいろいろと審査しますので、多少金額は変わることがございます。そういうこともご了解ください。以上でございます。

(成川議長)

ありがとうございます。いま国の方の考え方をいろいろご説明いただきました。他に何かご意見・ご質問はございませんか。

(事務局)

事務局からで申し訳ないのですが、補助上限額について、和歌山運輸支局さんにお伺いしたいのですが、よろしいですか。算定については、人口×単価+400万円ということですが、26年度は単価が299円であったのが、27年度には240円となっており、50円近く下がっているということで、今後もこういう風に単価が下がっていくのは避けて通れないという状況でしょうか。

(廣瀬委員)

地域公共交通確保維持改善事業というのは、全国で311億円あるんですが、離島航路であったり、地域内フィーダーバス、幹線系統、和歌山市内から海南市を抜けるような長距離を走るバスとかすべてを持っている訳なんです。どことも採算が悪い、少子高齢化とか就労人口の減少で公共交通機関を使う人口が減ってきているので、それだけ鉄道会社、バス会社の収入が圧迫されてきている。その分補助金を全体で分けていくと、今回50円ですけど、大幅に下がってしまったというところが理屈上の話になります。今後の見通しとしてどうなるかということ、多分この状況は続くんじゃないかと思えます。これは個人的見解ですけど、そういう風に思えます。ということは、これを維持していきこうと思えば、地域の負担というものが当然大きくなっていくというのは、予測されるんじゃないでしょうか。そのためにも、地域の皆さんにはできる限り使っていただける交通、無駄なコストをかけないような運行の仕方というものを、こういった会議で検討していく必要があるかと思えます。

(事務局)

ありがとうございました。

(成川議長)

50円下がったら大きい。20%ぐらいか。

(廣瀬委員)

今回はかなり大きかったですね。上限額に達していない所は大丈夫なんですけど、こちらのように上限額を超えている所については厳しいと思いますね。

(成川議長)

厳しい見通しと伺ったのですが、交通弱者のためによりしくお願いします。他にご意見ございませんか。

(意見及び質問なし)

(成川議長)

それでは、議案第2号「平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画」について、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)

ありがとうございます。ご異議がないようですので、議案第2号「平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画について」は承認されました。

議案2件は終わりましたが、「その他」ということで、事務局から何か議題はありま

すか。

(事務局)

はい、資料の30ページをお開きください。今年5月1日に3年ぶりにダイヤ改正をしたこともありまして、利用者の方にアンケート調査を実施したいと思います。対象者は高齢者の方がほとんどだと思いますので、できる限りシンプルでわかりやすく、文字も大きくしております。方法については、バスにアンケート用紙を積んでもらい、乗車した方に手に取ってもらえるように、運転手さんにアナウンスをお願いする。回収については、次回乗車の際に運転手さんに渡してもらい、あるいは回収箱を車内に設置してもらおうというような形を考えております。勿論、中紀バスさんと相談のうえになりますけれども、事務局としての案でございます。アンケート結果については、集計後、当会議でご報告させていただきたいと思っております。

また、参考資料としまして、33ページから直近3年度分の利用者数の資料も付けさせていただきます。以上でございます。

(成川議長)

利用者の声を反映して、より合理的な運行計画を作ることは大事なことだと思います。アンケート調査を実施するという事なので、このアンケート調査について、何かご意見ございませんか。

(意見及び質問なし)

(成川議長)

出来るだけアンケートを回収して、今後の運行計画に活かしていただきたいと思います。アンケート調査の件は、これで終わります。

折角の機会ですので、事務局から言っておきたいことはありませんか。

(事務局)

アンケート調査の結果を踏まえまして、今後のダイヤ改正やルートに反映させて、より利用してもらえようようにしていきたいと思っております。

あと、市のホームページが今年度リニューアルされたことに伴いまして、トップページにデマンドバスのバナーを作っていただきました。今までデマンドバスの所は探しにくかったのですが、ホームページを開いて、トップページを見てもらうと、すぐにわかるようにしております。広報の面からも工夫を加えまして、利用促進に努めております。また、市の広報誌でも定期的に利用促進の記事を載せて、市民の方へ広報していきたいと考えております。以上です。

(成川議長)

継続してPRしていくことは非常に大事な事なので、しっかりとやっていただきたいと思います。折角の機会ですので、委員の皆さん、全般的に何でも結構です。何かご意見ございませんか。

(平田委員)

名簿なんですけど、一般社団法人和歌山県タクシー協会があります。本日はたまたまご欠席ですけど、和歌山県タクシー協会は諸般の事情で分かれております。ご存知かと思いますが、もう一つ、一般社団法人和歌山県ハイヤー・タクシー協会も設立されております。その所属のタクシー事業者がこの地区にもいらっしゃると思いますので、この会議の所属団体にですね、今後もう一団体ハイヤー・タクシー協会も加えた方が良くないかと思っております。

(成川議長)

事務局は、このことを知っていますか。

(事務局)

はい、今年5月に設立されたというのは聞いております。

(平田委員)

名簿とかございますので、また送付させていただきます。

(事務局)

設立されたのは知っているんですが、所属されている事業所は把握しておりませんので、情報提供していただけたらと思います。

(平田委員)

新しく設立されたハイヤー・タクシー協会の中に、この地区のタクシー事業者が入っていなければ問題ないのですが、おそらく入ってらっしゃると思われまますので。

(成川議長)

わかりました。情報をいただきまして、検証・点検いたします。

(平田委員)

続けてよろしいですか。3ページのデマンドバスの実績があつて、30万円の赤字が出ています。今のところ事業者負担ということなんですが、それを踏まえて、参考資料で過去3年分の利用者実績を付けてもらっていますが、23年度、24年度の収支実績がどうなっているのかということと、23年度から順に見ていきますと、例えば、33ページを見てみますと、一日当たりの指数が、23年度で一日あたり36.16(人)、24年度は34.99、25年度は32.73というように減っている、この原因は何かということをお簡単にレクチャーしていただきたい。それと、先ほどもおっしゃっていましたが、広報誌等でアピールするという事なんですが、今後お客様に乗っていただくような利用対策としては、広報誌以外でどのようなお考えがあるのかということをお聞かせいただきたいと思ひます。それと併せて、中紀バスさんが幹線としますと、コミュニティバスがフィーダー、フィーダーと中紀バスさんとの接続と言ひますか、結節点ですよね。そこから併せて広報していただくと、若干の利用客の伸びにつながるのではないのでしょうかということをお提案したいと思ひます。

(廣瀬委員)

結節点は駅ですね。

(事務局)

実際に乗車人員については、右肩下がりで減つてきています。その要因といたしましては、有田市の人口自体も同じように右肩下がりで減っていることと思ひます。それと、デマンドバスの目的としましては、交通空白地域の解消ということがありますので、目的地にストレートに行けないということもありまして、近距離であれば、タクシーを使われる方も出てくるのかなと思ひます。学生さんであれば、雨の日なんかにご利用いただひているのかなと思ひますが、今のご時世、親御さんが自家用車で送り迎えをすることが増えておりますので、高齢者、若い方ともに利用者数が段々減つていっているのではなからうかということおです。それで、どうしたら乗ってもらえるのかということおで、試行錯誤しながら、今回ダイヤ改正してみようかということおでした。運行ルートにつきましても、前回は平成23年5月にダイヤ改正を行つていますが、それ以前の利用者数が多かった時のルートに戻してみようかということおで、そういう風にダイヤ改正を行ひました。今回のダイヤ改正について、先ほど申し上げましたアンケート調査を

行いまして、実際にご利用いただいている方の声をお聞きして、今のルートの回り方はどうなのかということなどを検証してみたいと考えております。以上でございます。

(成川議長)

結節点というのは、箕島駅でいいのか。

(事務局)

結節点は箕島駅です。現在、中紀バスさんの路線バスは有田市内を走っていませんので、JRと結節するというので、箕島駅で接続するというようにしております。

(成川議長)

ダイヤとかルートを見てもわかりにくいので、何かわかりやすいような利用の案内があれば良いなと思うんですが。結節点がどこで、運行ルートがこうなっているの、こういう利用の方法がありますよとか、利用の方法もPRの中で考えていったら良いんじゃないか。

(平田委員)

そう思いますね。広報も併せてやる。

(成川議長)

無理もない所もあるが、わかりにくいので、もっと身近にキャラクターを作るとか。

(事務局)

バスの車体には紀州レンジャーの絵をラッピングして、見た目には親しみやすいようにしていただいています。

(成川議長)

アンケートを有効に利用するのも大事だけれど、私も含めて実際にデマンドバスに乗ってみるのも良いと思います。実体験、現場からの視点も大事かなと思います。ぜひ委員の皆さんも乗ってみてください。また、ご意見を聞かせていただけたら、非常に参考になると思いますので。

(脇村委員)

一番問題になっているのは、市立病院が拠点になって、初島から辰ヶ浜に行く時に市立病院前で一旦降りなければならない。その後のバスの連絡が悪いので、半時間も待たたりして、時間のロスがある。それなら初島からタクシーで行くというような声もあります。

(成川議長)

おっしゃっているのは、結節点で待ち時間が長いということですか。ということなので、中紀バスさん、こういう意見もあるということで、よろしくお願いします。

(高垣委員代理)

私も実際に乗務することがあります。有田市のデマンドバスは1回か2回ぐらいしか走ったことはないんですが、由良の方で路線バスに乗務する機会がありまして、実際に乗ってくれるお客さんは10年前に比べまして、正直段々減ってきています。段々乗らなくなってくる理由というのは、介護タクシーとかの方が病院へ行くのに都合が良いかあります。デマンドバスの乗務員から話を聞いたこともあるんですが、どうしても少子高齢化ということで、乗られている方はお年寄りが多いです。そのお年寄りの方が亡くなられたという話も聞いたりしています。そういう方は頻繁に乗っていただいています。年間の乗車人員は延べ人数で数えていますので、お年寄りが一人亡くなるだけ

で、何十人も減ってしまうということになります。これは有田市に限った事ではないですが。50代、60代の方はほとんど車の免許を持っていると思いますが、そういう方が70代、80代になって車の運転が難しくなったときに、バスに乗るかといえば、なかなか難しいところがあります。そういう方々に乗っていただきたいのですが、そういう所が課題かなと考えております。

(成川議長)

世の中どんどん少子高齢化で社会構造が変わっていきます。高齢者については、介護を含めて、色々な事業所が送迎サービスをするようになっていく。少子の方は、雨の日の箕島駅を見ていただいたらわかりますが、親御さんの送迎の車でいっぱいです。昔はそういう光景もありませんでしたが、親も優しくなってきた、何かあれば必要以上に送り迎えをするという傾向になってきているのかなと思います。そういう支援を受けられない子供や高齢者、いわゆる交通弱者の方を支援していくのが行政の役目だと思いますので、皆さんに色々ご意見をいただいて、一所懸命頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(平田委員)

先ほど委員の方から市立病院という一例が出ましたが、この有田における一番大きな病院というのは、市立病院なのですか。他にもいくつか病院はあるんですか。

(成川議長)

今のところ一番大きいのは、市立病院です。

(平田委員)

市立病院というのは自家用バスを持っていて、自家輸送というのはやっているのですか。

(成川議長)

やっていません。ただ、来院者は非常に多いところなので、そこへロス無しに行ければ、利用者にとっては非常にありがたいことになります。大体利用者が多いのは、市立病院とオークワですか。

(高垣委員代理)

そうですね。あとは箕島駅ですね。その3カ所は必ず通るようにはしてるんですが、有田市内全体を2台で運行していますので、ある地区から病院へお送りしたら、次の地区へ回らなければなりません。病院から戻りたい、10～20分で用事を済まして、その時は別の地区を走っていますので、その辺はどうしようもないと思っております。

(平田委員)

先ほど25年度が30万円ぐらいの赤字ということだったのですが、23年度、24年度というのも若干の赤字が出ているのですか。

(事務局)

すいません。23年度の収支については、今持ち合わせていないのですが、24年度の運行実績の収支につきましては、収入が17,107,000円、支出で17,240,388円ということで、約13～14万円ぐらいの赤字となっております。

(平田委員)

全体的な話なんですけど、今日皆様に集まっていたいただいて会議をしているわけです。最終的には、他の自治体にもお願いしておりますが、事務局に議事録を作っていただいて、委員の皆様方に送付していただくのと同時にですね、例えばホームページ等で委員以外

の皆様にも留まるような措置をお願いしたいと思っております。

(事務局)

議事録につきましては、以前からホームページで公開しております。ホームページのデマンドバスの所から見られるようにしています。

(成川議長)

他にご意見等ございませんか。こういう集まる機会はなかなかありませんが、経営管理部経営企画課まちづくり係で担当しておりますので、また何かありましたら、ご意見でも、ご質問でも、ご要望でもお寄せいただけたらと思います。時間もかなり経過して参りましたので、そろそろ会議を終わらせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、これで平成26年度第1回有田市地域公共交通会議を終了させていただきます。皆様お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひします。

5. 閉会